

# 日本漢方協会通信

2018年 8月

## 漢方薬局製剤実習講座が開催されました!

2018年7月15日(日) 10:00～17:00 於 慶応義塾大学・芝共立キャンパス (総勢 103名)

### ■散剤：安中散

原典に忠実に散剤とすることで、水溶性・脂溶性・揮発性の生薬成分を余すところなく服用できます。



#### 1) 生薬の検査

におい、味について実際に確認し、夾雑物などがあれば除去。



#### 2) 秤取

7味の生薬を規定重量ずつ秤取りし、粉碎機へ移します。



#### 3) 粉碎

粉碎時の熱で生薬が変性しないよう、慎重に行います。



#### 4) 篩過 (しか)

100号の篩を全量通るまで篩過します。篩過残は再度粉碎。



#### 5) 混和・秤量

36号の粗めの篩を通し、各生薬を均一に混和後、出来高を秤量。



#### 6) 分包・重量偏差試験

2gずつ手分包。平均重量に対する偏差10%以下で適合です。

### ■茶剤：安中散料

剤形の異なる「安中散料」も一般的です。散剤と茶剤の製剤手順や特性の違いを学びました。



#### 1) 秤取

生薬の入れ忘れ／重複を防ぐため、重ねずに置いてゆきます。



#### 2) 分包

和紙袋へ移し、ヒートシールで封じます。



#### 3) 文書等の整備

ラベル、添付文書、製造記録書をすみやかに作成します。